

## 「思考と習得とをつなげ、活用力の向上を図る」

### 学習指導の実践的研究

～交流を通して思考力・判断力・表現力を高める学習指導の工夫～

(小学2年 算数科 単元名 「かけざん 九九づくり」 全17時間)

苫前町立古丹別小学校 佐 治 慎 吾

## 1 はじめに

### (1) 単元について

前単元では、乗法の意味や式、答えの求め方について理解を図るとともに、5の段、2の段、3の段、4の段の九九を構成し、それを使った問題解決や問題づくりもさせてきた。また、その範囲の九九について表にまとめることも扱い、交換法則などのきまりにも着目させた。

本単元では、これらの既習事項をふまえ、同数累加としての乗法の意味をもとにしたり、乗数が1増えると積は被乗数と同じ数だけ増えることをもとにしたりして、6の段、7の段、8の段、9の段、1の段の九九を子どもたち自身で構成していく。九九は、これから学習する乗法や除法の計算などの基礎となる内容なので、すべての子どもがその意味を理解し、且つ、技能として定着できるようにすることが重要である。九九の構成の学習が終了しても、練習の機会を繰り返し設けたり、ゲームにして取り上げたりするなど、継続的な取り組みによって習熟を図っていきたい。

また、九九を習得したあと、連続量の場面と関連させて、「いくつつ分」を「何倍」として捉えることも指導する。倍概念は、本単元の指導に始まり、以降の学年で段階的に理解を深めていく。図の表現とも結びつけながら、実感を伴った理解がされるように指導を工夫していく。

## 2 研究の視点

### (1) 指導計画の工夫

本単元の基礎・基本となることは、「基準量(1つつ分の数)を決め、そのいくつつ分あるかを計算する」という、乗法の演算の意味を理解することである。乗法九九の意味については、前単元で指導してきたが、6の段以降のどの九九でも活用できる考え方であることを確実におさえる必要がある。そのため、6の段以降も児童自身で図をかき、九九を構成するようにした。そして、確認問題として乗法の意味を問う問題を設定することで、習得したことを活用するような指導計画を考えた。

また、本単元では倍概念も指導する。倍概念は、前単元から学習してきた「いくつつ分」を「何倍」として捉えることである。数量を円滑に数える方法として扱ってきた乗法の場面と異なるため、混乱を避けるために、倍概念の学習は単元の最後に行った。

本時では、箱に入ったチョコレートの個数を数える場面を取り扱った。数は多くないので、これまでの生活でも、1つつ、もしくは2とびで数えてきたようなも

のである。そこで、今まで「はかせ（早く・簡単に・正確に）」で数を数えるため  
にかけ算を活用してきたことを想起し、学習してきたかけ算を使って数える方法を  
考える課題を設定した。早く簡単に数えるためには九九を活用することが必要で、  
どのようにすれば九九を活用できるようになるかを課題として設定し、見通しをも  
たせるようにした。振り返り問題では、発展的な内容として、本時の問題よりも複  
雑な場面の問題を設定した。全体交流で出てきたいろいろな考え方から、分けたり、  
動かしたり、補完したりして並べ替えることで、かけ算を使って数えることができ  
ることを気付かせるようにした。

## （２）考え、表現する場の工夫

算数において問題把握の段階で重要になってくるのが、「問題場面の理解」「求  
答事項（聞かれていること、求めること）をとらえること」「既知事項（分かっ  
ていること）や条件をとらえること」「使えそうな既習事項を思い出すこと（類推的  
な考え方）」である。このうち、本単元では特に「使えそうな既習事項を思い出す  
こと（類推的な考え方）」に重点を置き、問題提示後に見通すようにした。

本単元で活用する既習事項は、「基準量（１つ分の数）の設定」「いくつ分」で  
ある。乗法の式を図で表すことを既習事項とし、「式と図で表す」→「補足となる  
語句や図を書き込む」→「図を用いて説明する」活動を継続的に行うことで、乗法  
を用いた数え方について、全員が説明できるようにした。単元を通して、乗法を  
図で表したあとは必ずペア交流を行った。つまり、自分で表す図は他人に説明する  
ことを前提としており、ペアの相手を理解させるような図式化を意識させることが  
できると考えた。また、全体交流では説明を１人だけで行わず、途中で交代してリ  
レーしながら行うことで、全員が主体的にかかわり学習内容の理解を深めるよう  
に指導してきた。

本時では、「乗法を使える形にする」という活動に焦点化できるような見通しを  
もたせた。そうすることで、その後の自力解決や交流で乗法を使うことを意識して  
取り組むことができると考えた。振り返りの問題もそのままでは乗法を使えない問  
題を設定した。「乗法を使える形にすることで、円滑に数えることができる」とい  
うまとめを定着させ、乗法を活用できた実感をもたせたいと考えた。また、ノート  
をもとに、ペア交流を行った。その後、全体交流ではノートを実物投影機でテレビ  
に映した。ペア交流で自信をもたせたいうえで、わかるように筋道だった説明をす  
るよう教師が適切に関わっていくことで、表現力が向上すると考えた。振り返り問  
題では、「見ただけでわかるように式と図をかこう」と投げかけることで、板書を参  
考に、考え方の図に説明の補助となる語句や図をかけるようにした。

### 3 単元の目標

- 乗法に関して成り立つきまりを用いて，6，7，8，9，1の段の九九を構成することができる。
- 6，7，8，9，1の段の九九の唱え方について知り，6，7，8，9，1に1位数をかける計算が確実にできる。

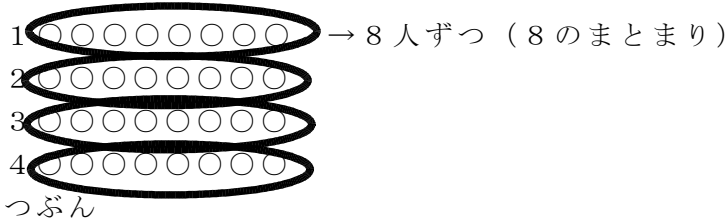
### 4 指導計画(17時間)

	主な学習活動と児童の様子（◎教師の発問・児童の反応）	【評価規準】と視点
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○○○○○○ ○○○○○○ ○の数を数えましょう。</p> </div> <p>◎解決の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算を使って数えられる。</li> </ul> <p>◎自力解決をし，交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>2 \times 6 = 12</math>だ。</li> <li>・<math>6 \times 2</math>でもできるよ。</li> </ul> <p>◎どうして<math>2 \times 6</math>にも<math>6 \times 2</math>にもなるのかをペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてに2つ囲めば<math>2 \times 6</math>だ。</li> <li>・1つ分の数を6にすれば<math>6 \times 2</math>だ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 6のだんの九九をつくってしらべよう。</p> </div> <p>◎6の段を児童自身で構成する。</p> <p>◎6の段の構成の特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かける数が1増えると，答えが6ずつ増える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>まとめ 6のだんは，かける数が1ふえると，答えが6ずつふえる。</p> </div> <p>振り返り問題</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><math>6 \times 3</math>のしきになる図をかいて，図のかき方を説明しましょう。</p> </div> <p>◎全体交流で，リレー形式で説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず，1つ分の数が6なので，○を6こかいて囲み，6のまとまりをつくりまます。</li> <li>・つぎに，いくつ分が3なので，6のまとまりを3つ分かきます。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点1 指導計画の工夫</p> </div> <p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法の仕組みを使って○の数え方を考えることができる。(ノート)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点2 考え，表現する場の工夫</p> </div> <p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎6の段の構成の仕方を考えることができる。(ワークシート)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点1 指導計画の工夫</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点2 考え，表現する場の工夫</p> </div>

2 3	◎ 6 の段の九九を覚える。	【技能】 ◎ 6 の段の九九を確実に唱えることができる。 (九九暗唱の聞き取り)
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○○○○○○○  ○○○○○○○  ○の数を数えましょう。 </div> ◎解決の見通しを立てる。 ・かけ算を使って数えられる。 ◎自力解決をし、交流する。 ・ $2 \times 7$ でも $7 \times 2$ でもできるよ。 ◎どうして $2 \times 7$ にも $7 \times 2$ にもなるのかをペアで交流する。 ・たてに2つ囲めば $2 \times 7$ だ。 ・1つ分の数を7にすれば $7 \times 2$ だ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>課題</b> 7のだんの九九をつくってしらべよう。 </div> ◎7の段を児童自身で構成する。 ◎7の段の構成の特徴を考える。 ・かける数が1増えると、答えが7ずつ増える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>まとめ</b> 7のだんは、かける数が1ふえると、答えが7ずつふえる。 </div> <p>振り返り問題</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <math>7 \times 3</math>のしきになる図をかいて、図のかき方を説明しましょう。 </div> ◎全体交流で、リレー形式で説明させる。 ・まず、1つ分の数が7なので、○を7こかいて囲み、7のまとまりをつくります。 ・つぎに、いくつ分が3なので、7のまとまりを3つ分かきます。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>視点1</b>  指導計画の工夫 </div> 【数学的な考え方】 ・乗法の仕組みを使って○の数え方を考えることができる。(ノート)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>視点2</b>  考え、表現する場の工夫 </div> 【数学的な考え方】 ◎7の段の構成の仕方を考えることができる。 (ワークシート)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>視点1</b>  指導計画の工夫 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>視点2</b>  考え、表現する場の工夫 </div>
5 6	◎ 7 の段の九九を覚える。	【技能】 ◎ 7 の段の九九を確実に唱えることができる。 (九九暗唱の聞き取り)

1 1れつに 8 人ずつ, 4 れつにならんでいます。  
 ぜんぶで何人いるでしょうか。

- ◎解決の見通しを立てる。
  - ・ 1 つ分の数が 8 で, いくつ分が 4 だ。
- ◎式を立て, 図をかき, 図のかき方を交流する。
  - ・ 式は  $8 \times 4$  だ。



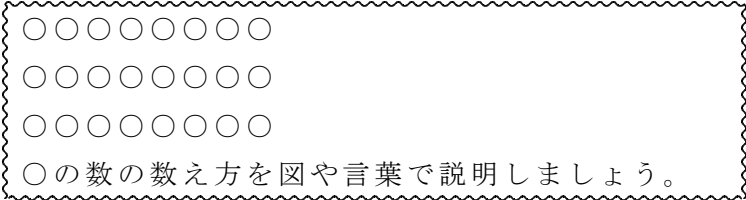
- ・ まず, 1 つ分の数が 8 なので, ○を 8 こかいて 囲み, 8 のまとまりをつくります。
- ・ つぎに, いくつ分が 4 なので, 4 のまとまりを 4 つ分かきます。
- ・  $4 \times 8$  とおなじだ。

**課題** 8 のだんの九九をつくってしらべよう。

- ◎ 8 の段を児童自身で構成する。
- ◎ 8 の段の構成の特徴を考える。
  - ・ かける数が 1 増えると, 答えが 8 ずつ増える。

**まとめ** 8 のだんは, かける数が 1 ふえると, 答えが 8 ずつふえる。

振り返り問題



- ◎全体交流で, リレー形式で説明させる。
  - ・ まず, 横に 8 この○を囲みます。これで, 1 つぶんの数が 8 になります。
  - ・ つぎに, 同じように 8 こずつ○を囲んでいくと, 8 のまとまりが 3 つできます。
  - ・ 8 のまとまりが 3 つ分なので,  $8 \times 3 = 24$  で, 答えは 24 こです。

**視点 1**  
 指導計画の工夫

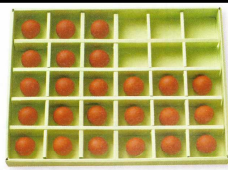
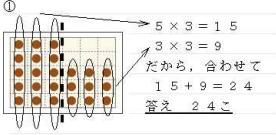
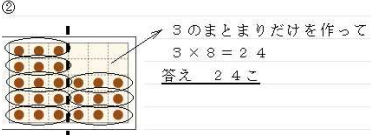
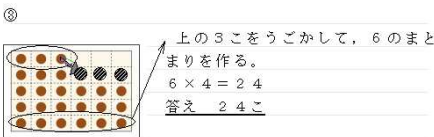
**視点 2**  
 考え, 表現する場の工夫

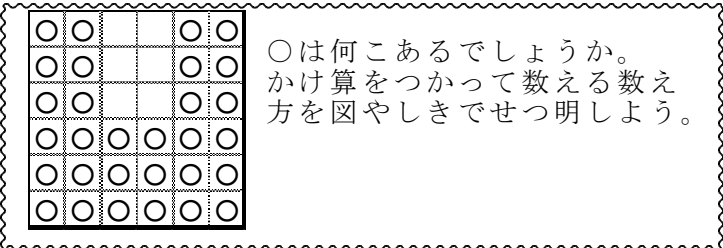

**【知識・理解】**  
 ・ 乗法の式を読み取って場面を表す図をかくことができる。(ワークシート)

**【数学的な考え方】**  
 ◎ 8 の段の構成の仕方を考えることができる。(ワークシート)

**視点 2**  
 考え, 表現する場の工夫

<p>8 9</p>	<p>◎ 8 の段の九九を覚える。</p>	<p><b>【技能】</b> ◎ 8 の段の九九を確実に唱えることができる。 (九九暗唱の聞き取り)</p>
<p>10</p>	<div data-bbox="304 383 1061 481" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>9 人ずつのやきゅうチームが 4 チームあります。ぜんぶで何人いるでしょうか。</p> </div> <p>◎ 解決の見通しを立てる。 ・ 1 つ分の数が 9 で、いくつ分が 4 だ。 ◎ 式を立て、図をかき、図のかき方を交流する。 ・ 式は <math>9 \times 4</math> だ。</p> <div data-bbox="304 772 1061 996" style="margin-bottom: 10px;"> <p>1 ○○○○○○○○○○ → 9 人ずつ (9 のまとまり) 2 ○○○○○○○○○○ 3 ○○○○○○○○○○ 4 ○○○○○○○○○○ つぶん</p> </div> <p>・ まず、1 つ分の数が 9 なので、○を 9 こかいて囲み、9 のまとまりをつくりまします。 ・ つぎに、いくつ分が 4 なので、4 のまとまりを 4 つ分かきます。 ・ <math>4 \times 9</math> とおなじだ。</p> <div data-bbox="304 1355 1061 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>課題</b> 9 のだんの九九をつくってしらべよう。</p> </div> <p>◎ 9 の段を児童自身で構成する。 ◎ 9 の段の構成の特徴を考える。 ・ かける数が 1 増えると、答えが 9 ずつ増える。</p> <div data-bbox="304 1646 1061 1736" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>まとめ</b> 9 のだんは、かける数が 1 ふえると答えが 9 ずつふえる。</p> </div> <div data-bbox="304 1803 1061 1982" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>振り返り問題</b> ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○の数の数え方を図や言葉で説明しましょう。</p> </div> <p>◎ 全体交流で、リレー形式で説明させる。</p>	<div data-bbox="1093 383 1412 459" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>視点 1</b> 指導計画の工夫</p> </div> <div data-bbox="1093 806 1412 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>視点 2</b> 考え、表現する場の工夫</p> </div> <p><b>【知識・理解】</b> ・ 乗法の式を読み取って場面を表す図をかくことができる。 (ワークシート)</p> <p><b>【数学的な考え方】</b> ◎ 9 の段の構成の仕方を考えることができる。 (ワークシート)</p> <div data-bbox="1093 1960 1412 2038" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>視点 2</b> 考え、表現する場の工夫</p> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、横に9この○を囲みます。これで、1つ分の数が9になります。</li> <li>・つぎに、同じように9こずつ○を囲んでいくと、9のまとまりが2つできます。</li> <li>・9のまとまりが2つ分なので、<math>9 \times 2 = 18</math>で、答えは18こです。</li> </ul>	
1 1 1 2	◎9の段の九九を覚える。	<b>【技能】</b> ◎9の段の九九を確実に唱えることができる。 (九九暗唱の聞き取り)
1 3	◎1の段の九九を覚える。	<b>【技能】</b> ◎1の段の九九を確実に唱えることができる。 (九九暗唱の聞き取り)
1 4 本時	 <p>チョコレートは何こあるでしょうか。</p> <p><b>課題</b> かけ算をつかってチョコレートの数の数え方を考えよう。</p> <p>◎解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算がつかえるように、そろえる・分ける・うごかす</li> </ul> <p>◎図や式でノートに説明をかき、交流する。</p> <p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p> <p><b>まとめ</b> 分けたりうごかしたりして、かけ算をつかえるならべ方にそろえるとよい。</p>	<p><b>視点1</b> 指導計画の工夫</p> <p><b>視点2</b> 考え、表現する場の工夫</p> <p><b>【数学的な考え方】</b>  ◎乗法を使った数え方を考えることができる。  (ノート)</p>

	<p>振り返り問題</p>  <p>○は何こあるでしょうか。 かけ算をつかって数える数え方を図やしきでせつ明しよう。</p>  <p>いくつかのよびに分けて、6のまとまりを作る。 <math>6 \times 5 = 30</math> 答え 30こ</p> <p>上の2こをうつして、6のまとまりをつくる。 <math>6 \times 5 = 30</math> 答え 30こ</p>	<p><b>視点2</b> <b>考え、表現する場の工夫</b> 【数学的な考え方】</p> <p>◎乗法を使った数え方を考えることができる。 (ワークシート)</p>
<p>1 5</p>	<p>電車の長さは4cmです。この電車2台分の長さ と3台分の長さをもとめましょう。</p> <p>◎解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4cmの2台分だから、かけ算じゃない。</li> <li>◎2つ分のことを「2倍」、3つ分のことを「3倍」ともいうことを知る。</li> </ul> <p>○つ分＝○倍といい、かけ算のしきであらわす。</p> <p>振り返り問題</p> <p>2cmの5倍の長さになるように、色をぬりましょう。また、2cmの5倍の長さを、かけ算でもとめましょう。</p>	<p><b>視点1</b> <b>指導計画の工夫</b></p> <p>【知識・理解】</p> <p>◎倍はかけ算の式で表されることを理解している。 (教科書問題)</p>
<p>1 6</p>	<p>◎練習問題に取り組む。</p>	<p>【技能】</p> <p>◎6, 7, 8, 9, 1の段の九九を確実に唱えることができる。 (ノート)</p>
<p>1 7</p>	<p>◎まとめの練習問題に取り組む。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>◎式に表したり、式を読み取ったりすることを通して、乗法が用いられる場面の数量の関係について理解している。(6, 7, 8, 9, 1の段) (ノート)</p>



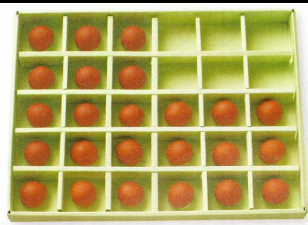
## 5 本時の実際

### (1) 本時の目標

- ◎ ものの数を数える際に乗法を用いる方法を考えることができる。(数学的な考え方)
- ものを数える際に乗法を使えることに気づき、乗法を用いて数えようとしている。

(関心・意欲・態度)

### (2) 本時の展開 (14 / 17)

主な学習活動 (・児童の活動 ◎教師の働きかけ)		【評価規準】と視点、支援○
問題把握	 <p>チョコレートは何こあるでしょうか。</p>	<p><b>視点1</b> 指導計画の工夫 教科書の「学んだことを使おう」を問題場面として設定した。もの数を数える際に、円滑に数えることは、日常で乗法をよく使う場面だと考えたからである。</p>
	<p>・問題を読み、チョコレートの図を見た。</p> <p>◎1つ1つ数えよう。1こ、2こ…</p> <p>それじゃあはかせじゃない!</p> <p>まとまりを作って、かけ算で数えられるよ。</p> <p>◎かけ算は見えそうに見えないけど…</p> <p>空いているところがあるよ。</p> <p><b>課題</b> かけ算をつかってチョコレートの数の数え方を考えよう。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ものを数える際に乗法を用いることで円滑に数えることができることに気づき、乗法を用いて数えようとしている。(発言)</p>
自力解決	<p>・課題に対する見通しを立てた。</p> <p>◎かけ算を使えるようにするには、どうすればよいのだろう。</p> <p>まとまりをつくる!</p> <p>他に…</p> <p>分けられそう。</p> <p>ふやす…??</p> <p>うつつ!</p> <p>・チョコレートの数え方を考え、ノートに図や式を交えて書いた。</p> <p>空いているところにチョコレートを入れたら、6のまとまりができたぞ。 <math>6 \times 5 = 30</math>で、30こ…ん?おかしいなあ。</p>	<p>○かけ算を使って数えたいので、かけ算を使うように工夫しなければいけないことを確認し課題を焦点化させた。</p> <p><b>視点2</b> 考え、表現する場の工夫 図を書き、それを順序立てて式や文章にし、説明できるように書かせる。</p> <p>○1つかけた児童には、別の考え方も取り組ませる。</p> <p>【数学的な考え方】 乗法を使って考え、図や式で説明することができる。(ノート)</p> <p>○自力解決が難しい児童には、見通しで出てきた「わかる」「うごかす」などのキーワードをもとに考えられるよう声をかけた。</p>

交  
流  
20  
分

・ペアでチョコレートの  
数え方を交流した。

◎わからないところや、気になったことはどんどん質問



6のまとまりを作って、 $6 \times 5 = 30$ に  
しているけど、この6個はチョコレ  
ートがないから、数えちゃいけない？

3のまとまりを  
作ったなら、8つ  
ぶんできたよ。



$3 \times 8$ だね、同じ  
同じ。ぼく、他の  
もあるよ。

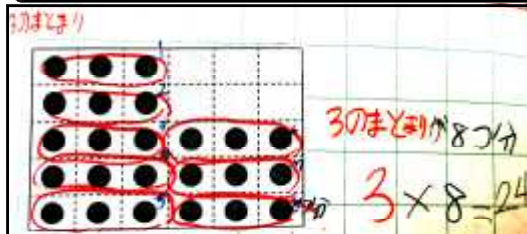
ペアで話して、付け加えたくなくなった  
ことを書き足しても良いですか？



・テレビに児童のノートを映し、ノートを書いた児童以外  
が数え方を想像して説明した。

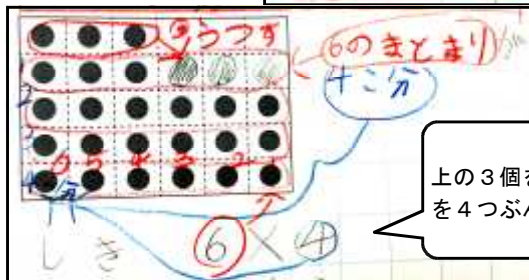


3のまとまりを作って、それが8つぶんになったの  
で、 $3 \times 8 = 24$ というふうに数えたと思います。



つ  
い  
て、  
説  
明

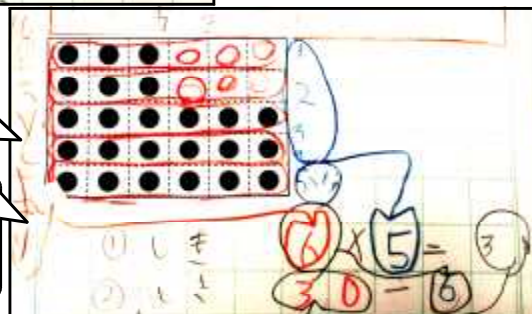
してみましょう。



上の3個を右にうつして、6のまとまり  
を4つぶんにしたんだ。

空いているところに6こふ  
やして、 $6 \times 5 = 30$ 。で  
も、それじゃあ本当はない  
ものを数えてるから…

6こあとから引けばいいん  
だ！だから、 $-6$ しているん  
だ。



○全員の自力解決を待  
たず、時間で区切った。

○「どうやってかけ算  
を使えるようにし  
たか」を必ず説明する  
ように促した。

### 視点2

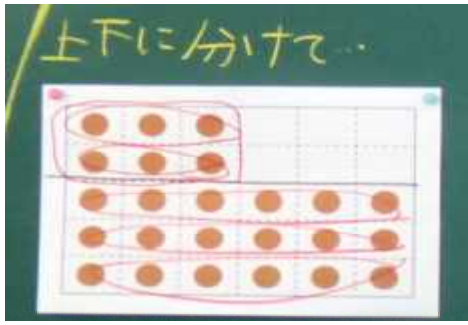
考え、表現する場の工夫  
ペア交流を行い、説明する活動  
を全員が行う。また、全体交流  
での理解を深めるため、いろい  
ろな考え方に触れられるように  
する。

○実物投影機で、子ども  
たちのノートを使い発  
表させた。

### 視点2

考え、表現する場の工夫  
どのようにしてかけ算を使える  
ようにしたか、いろいろな方法  
について全員が考える場を設定  
することで、本時の課題につい  
てまとめを行えるようにする。

○はじめはノートを映  
して全員で交流し、  
適宜代表児童を指名  
して説明させた。



上が  $3 \times 2$  で、下が  $6 \times 3$ 。  
これをたしてできるね。

◎どうしたら、チョコレートの数を数えることができましたか。

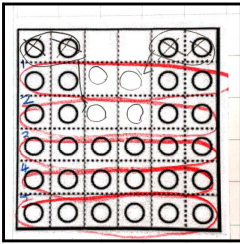
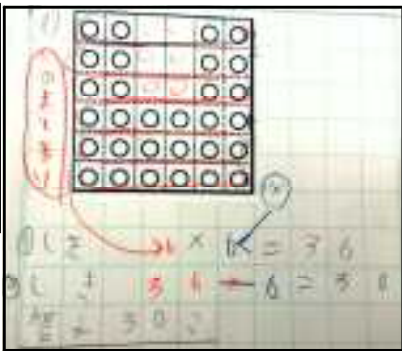
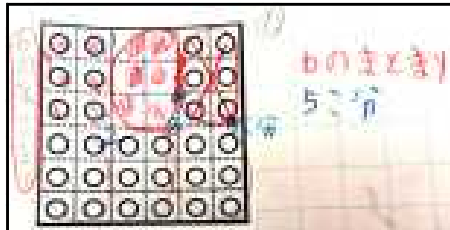
まとめ 分けたりふやしてへらしたりうつしたりして、  
かけ算がつかえるならば方にそろえるとよい。

・確認問題に取り組んだ。

**確認問題**  
○は何こあるでしょうか。  
かけ算をつかって数える数え方を図  
やしきでせつ明しよう。

視点1・視点2  
指導計画の工夫・  
考え、表現する場の工夫  
本時の問題より複雑だが、本時  
で活用した既習事項をそのまま  
適用できる問題にした。また、  
「見ただけでわかるように」と  
意識させ、全体交流で出てきた  
算数的表現を適切に用いるよう  
にする。

【数学的な考え方】  
乗法を使って考え、図や式で説明することができ  
る。(ワークシート)



○1つ書けた児童には別  
の考え方にも取り組ま  
せた。

## 6 成果と課題

### (1) 指導計画の工夫

#### 〔成果〕

- ・単元を通して「基準量（1つ分の数）やいくつ分」を矢印で表したり，色分けしたりすることを徹底し，意識させることにより，乗法の意味を着実に理解させることができた。
- ・全体交流において子どもからの気付きの声があり，振り返り問題ではその気付きを生かして取り組む子どもの姿が見られた。

#### 〔課題〕

- ・課題提示の段階で，子どもからでた「まとまりをつくる」という本時の重要な考え方を，指導の中で生かすことができるとよかった。

### (2) 考え，表現する場の工夫

#### 〔成果〕

- ・個々の子どもの考えを全体に返し，それを他の子が説明するという活動は，思考を広げる上で有効な手だてであった。
- ・子どもの発達段階を適切にとらえ，見通した教師の発問や机間指導，交流での投げかけは，思考力・判断力・表現力の向上に効果的なものであった。

#### 〔課題〕

- ・2年生における表現活動に必要な語彙，構成力などを養うためには，ペア交流や全体交流での児童の発言に対して教師が価値付けを行い，よりよい表現ができるようにしようという意欲をもたせることが必要である。

